

つぎみれば

和歌による場所の記憶と継承

岡井研究室 二二・五六 渡辺朋佳

『月』の情景は千年前から詠まれているように
この場所もずっと続いてほしいという意味を込めて

2025年11月2日 渡辺撮影

01 研究背景

研究のきっかけ

有名な廃墟

歴史的な背景がある場所

過去にその場所で何が起こったか
現代においても、当時の記憶をネットや書籍などで簡単に知ることができる

人知れず荒廃した場所

十数年経てしまえば
地域の記憶を知ることが難しい

社会的・地域的背景

私の祖父母は埼玉県入間郡越生町黒山という、自然あふれる地域で釣り堀を営んでいる。現在 SNS で釣り堀が取り上げられたこともあり、人が多く訪れている。しかしこの状況がずっと続いていくとも限らず、数年後この場所が廃れてしまう可能性もある。

祖父母の釣り堀

平成元年から営業している釣り堀。今から約 40 年前は釣り堀が流行っており、うちでもやってみよう! となった。昔は近所で 5 件ほど営業していたところがあったが現在はここだけ。釣り堀が閉業しても、この場所での思い出はずっと残っていてほしい

2025年7月6日 渡辺撮影

研究目的

どんな場所でも誰かは暮らしていて、その時の記憶、思い出があるはずである。
私はこのような地域の歴史や人の思いを未来へに残すため
プロダクト & 空間デザインに取り組んだ。
今回の提案によって越生町黒山の情景や文化を未来へと残していくことを目標とする。

02 越生町と和歌

太田道灌（おおたどうかん）

1432 年、埼玉県越生町龍ヶ谷の山枝庵で生まれたと言われている。
三十数度戦って負け知らずの名将であると同時に当時の京都を代表する高僧や文化人とも交流があった。
和歌にも優れた教養人であり、江戸城の建設にも関わる。

関東のものふ和歌

帝は関東とはどのような土地なのか（当時の関東は田舎で見渡す限り野原）と筆刀直入に訪ねた。道灌は
「露おかぬ方もありけり 夕立の空より広き武蔵野の原」
（夕立が降っても、武蔵野の北や南、あるいは東か西のどこかは降っていないのです、それくらい武蔵の野は広いです）
「露」＝草などに溜まっている水、雨粒
雨粒を置かない → 雨が降っていないところもあるということ
「夕立の空より広き武蔵野の原」＝夕立の空よりも武蔵の野は広いからです、と武蔵野の雄大さを説明している。
のちに和歌の実力も認められ、江戸時代には「文武両道の鑑」と称えられた。

俳諧 が盛んに行われていた

越生町黒山では古くから俳諧が盛んに行われており、下ヶ戸薬師寺（越生町黒山）では 1852 年に奉納句会が開かれ、越生町に現存する中で最も古い俳額も保存されている。
また越生梅林は関東三大梅林の一つであり、約 1000 本の梅が咲き誇る。1902 年にはこの梅林にて句会が行われ、投句 1500 余章、出席者 100 名という盛会であった。

提案

和歌を読み
歴史 情景 心情
などを伝え
場所の記憶の継承を目指す

小倉百人一首

平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて活動していた公家・藤原定家が選んだ和歌集。

情景 × 心情

『足曳さの 山島の尾の した尾の
なかなかに夜を ひとりも寝む』
神本人麻呂
山島の尾の長く垂れ下がった尾のような長い長い夜を私は一人寂しく寝るのだろうか

『往の江の 岸に寄る波 よるさへや
夢の通ひ路 人目よくらむ』
藤原教行
往の江の岸に寄る波のように、夜までも、夢の中で通る道であっても、どうしてあなたは人目を避けているのだろうか

自身の心情と情景を重ねて読まれた詩が多くある
↓
心情や情景など様々な要素から当時の記憶を残すことができるのではないかな

03 デザイン

東屋

今回敷地とする、ハイキングコースには休憩場所が少ない。
そこでハイキングを楽しみながら、休憩もできる新しい東屋をデザインする

東屋① 季語 東屋② 情景 東屋③ 心情 東屋④ 音・香り 東屋⑤ 茶室

月

月の満ち欠けのように徐々に円（満月）ができていく様子をデザインに落とし込んだ

2025年7月6日 渡辺撮影

04 記憶の継承

プロダクト

つえ 巻物

仕組みづくり

① ② ③ ④ ⑤

①…つえを手に入れる
②～④…各々の東屋をめぐる地域の記憶を巻物に記す（地域の記憶：情景、季節、におい、音、心情）
⑤…巻物の保管場所（地域の記憶の保存）

さらに追及！
そのワードから一句詠んでみる

気軽に！
各項目で
自分が感じたワードを書く

つえを手に入れて、ハイキングを楽しみながら
巻物に地域の記憶を記録する

05 対象敷地：埼玉県入間郡越生町黒山

黒山三滝

越辺川の支流となる三滝川に落ちる上下二段の男滝・女滝とやや下流にある天狗滝の 3 つの滝を合わせて黒山三滝という。もともと室山時代に山岳宗教の修験場の拠点とされており山本坊が開かれて以降、修験場として広く信仰を集めた。幕末に尾張屋三平によって江戸に広く紹介され、明治時代には鉱泉も発見され観光地として知られるようになった。昭和 26 年黒山三滝を中心とする一帯が県立黒山自然公園に指定。

滝開き

昭和 25 年に黒山三滝が日本観光百選瀑布の部に入選したことをきっかけに滝開きが行われるようになった。神官が祝詞を挙げた後、二人の巫女が女滝の滝つぼに神酒を注ぎ塩をまいて滝を清める。このような文化も未来へと継承していきたい

① 季語

② 心情

③ 情景

④ 音・香り

⑤ 茶室

つえを手に入れる

自分の心と向かい合い
巻物に記す

風景を見て感じたことを
巻物に記す

音、においで感じたことを
巻物に記す

巻物の保管場所
（地域の記憶の保存）

男滝・女滝

天狗滝

3 つの滝合わせて
黒山三滝

祖父母が営む釣り堀

5 つの東屋をめぐるながら、地域の記憶を
巻物に記録する

つえのデザイン

巻物→筆へと着想を得て
筆のデザインをつえに落とし込んだ

徒歩 13 分 約 1 キロ

S = 1 : 750

ハイキングコース入口